

## 地域における多職種連携による口腔機能発達支援の取り組み Regional approach for oral function development support through multidisciplinary cooperation

○赤井 綾美<sup>1)</sup>, 小石 剛<sup>2)</sup>  
○Ayami Akai<sup>1)</sup>, Gou Koishi<sup>2)</sup>

(<sup>1)</sup> NPO 法人ウェルビーイング, (<sup>2)</sup> 池田市歯科医師会)

<sup>1)</sup> Non-Profit Corporation, Well-being, <sup>2)</sup> IKEDA CITY Dental Association

### 【目的】

池田市歯科医師会では就学前の歯科保健管理を目的とし、1歳～7歳の幼児を対象に歯科健診およびフッ化物塗布、歯科保健指導を中心とした歯科健診事業を行っている。しかし、う蝕罹患の格差から予防管理的な事業だけでは解決しないハイリスク児へのアプローチの難しさ、子どもに関わる専門職からの離乳食や食に関する困り事が増加しており、地域全体の取り組み、子育て支援の一環として口腔環境の向上や口腔機能の発達への支援に対応していく必要がある。

池田市歯科医師会では、地域における多職種による支援の体制の整備を目的に、ワークショップ形式による研修事業を継続して開催し、今後の取り組みの方向性や課題について若干の知見を得たので報告する。

### 【方法】

平成25年度から平成27年度に5回のワークショップを開催した。池田市内の子どもに関わる組織、職種が横並びに顔を合わせ、それぞれの現場や立場からの子どものお口や食に関する困り事や悩みを共有し、顔の見える関係づくりを基本にし、歯科専門職から歯科疾患や口腔機能の発達に関する情報提供を行った。毎回、研修事業の評価を行うとともに、先駆的な行政区である東京都新宿区の保健センターでの口腔機能発達支援に関する相談事業の視察を行い、現場のニーズに答える情報提供に努めた。また、池田市全域の保育士への研修を行った。

### 【結果】

5回の研修の参加者は延べ200名以上となり、

連続参加者も増加した。参加職種は、歯科医師、歯科衛生士、保育士、管理栄養士、栄養士、保健師、言語聴覚士、助産師、歯科助手、小学校・支援学校教員、医師、子育て支援職など、幅広い業種が集う機会となり、参加者同士の共感や口腔機能の素晴らしさ、乳幼児期における支援の重要性について共通理解が得られた。一方、各現場での実践においてはまだまだ不安材料が多く、情報発信や支援体制の充実が課題として挙げられた。

池田市全域の保育士研修では事前調査より、「うまく食べられない・舌でつぶす・丸飲み・よだれが出る・口が開いたまま」等の口腔機能の発達過程における問題が多く寄せられ、約100名の参加を得た。

これらの現状認識を市の保健センターと共有したことで、市の乳幼児健診事業および歯科医師会乳幼児歯科健診項目として口腔機能の発達評価を定め、対象者に応じた支援および相談事業の実施に向けた検討に着手できたことは大きな成果であった。

### 【考察】

今後は、新たな健診体制の整備と人材育成、さらに歯科健診場面以外での現場で挙げられた課題解決に向けた取り組みが必要であると考えます。今後、地域における保健専門職および子育てにかかわる団体等の関係者で構成するチームでの症例検討等を通し、既存事業との協働および新たな口腔機能の発達支援事業の展開に向け、多職種の協働によるプロジェクト体制の整備を検討していきたい。